

平成28年度 子育て支援特別委員会行政視察報告

1. 視察期間 平成28年8月4日(木)～5日(金)
2. 出席者
  - (1) 委員  
委員長 本目 さよ、 副委員長 小菅千保子  
委員 中澤 史夫、 青鹿 公男、 鈴木 昇、 望月 元美、 高森喜美子、  
河野純之佐、 阿部 光利、 秋間 洋、 木下 悦希
  - (2) 同行理事者  
子ども家庭支援センター長 川口 卓志
3. 視察先及び調査事項
  - (1) 大阪府堺市 キッズサポートセンターさかい運営事業について  
さかい子育て応援団事業について
  - (2) 大阪府池田市 保育ステーションについて
4. 調査の概要  
別紙のとおり

## 【大阪府堺市】

## 1. 市の概要

人 口 844,811人(平成28年4月30日現在)

面 積 149.82km<sup>2</sup>

## 主な特色

- ・大阪府の中央部の西寄り、大和川を隔てて大阪市の南に位置している。大和川の河口から東南方向に広がった市域をもち、地形は大別して西部海浜の平坦地と東南部丘陵地帯からなる。
- ・84万人の人口を有する政令指定都市であり、南大阪の中核的都市として、関西の文化・経済を牽引している。
- ・古代には仁徳天皇陵古墳をはじめとする百舌鳥古墳群が築造され、中世には海外交易の拠点として「自由・自治都市」を形成し、国の経済、文化の中心地として繁栄してきた。戦後、臨海コンビナートと泉北ニュータウンの造成により、現在の姿になった。

## 2. 調査事項

キッズサポートセンターさかい運営事業

さかい子育て応援団事業

## (1) キッズサポートセンターさかい運営事業

## ア. 施設概要

場所：堺市堺区三国ヶ丘御幸通59番地 堺タカシマヤ9階

面積：約1,000m<sup>2</sup>

開設日：平成26年4月

## イ. 目的

子供とその保護者等が「遊び」を出発点に集い、交流し、気軽に相談できる子育て支援の場を提供することにより、子育ての孤立化を防ぎ、子育てに関する不安感や負担感を軽減するとともに、幅広い層の市民が利用しやすく親しまれる子育て支援の場とすることにより、まちのにぎわいづくりにも資することを目的としている。

## ウ. 事業内容

平成25年11月に堺市・株式会社高島屋・株式会社ボーネルンド・厚生労働省大阪労働局の4者で締結した基本協定書に基づいた、公民のコラボレーションで運営する子育て支援施設。南海高野線堺東駅前の堺タカシマヤ9階フロアの約1,000m<sup>2</sup>に、「堺市つどい・交流のひろば」・「ボーネルンドあそびのせかい」・「タカシマヤわくわくプレイス」の3つのゾーンがあり、同フロアにある「堺マザーズハローワーク」とも連携している。

## (ア)「堺市つどい・交流のひろば」

事業主体：堺市

面積：334m<sup>2</sup>

利用対象：子供(12歳以下)とその保護者

利用料：無料

子育てにかかる不安感や負担感を軽減できるよう、子育て中の家庭が集まり、交流できる場を提供している。子育てに関する様々な相談ができるほか、プライバシーが確保できる相談室もあり、医師や心理士による発達障害等の専門相談も行っている。また、絵本コーナーや授乳室・おむつ替え室を備えた赤ちゃん専用のスペースもあり、ボランティア等による読

み聞かせ会やお話会も開催している。

(イ)「ポーネルドあそびのせかい」

事業主体：ポーネルド

面積：629㎡

利用料：子供（最初30分）600円、延長10分ごとに100円

大人（施設利用料金）500円

季節・天候に左右されずに「こころ・頭・からだ」を全部使って遊ぶことができる室内遊び場。

(ウ)「タカシマヤわくわくプレイス」

事業主体：高島屋

面積：35㎡

年間を通じて「季節感」「手作り」「いやし」などを意識したイベントを開催し、「わくわく」できる機会を提供する。お話会や少人数でのワークショップなどを実施している。

(エ) 大阪大学との連携

大阪大学から心理士1名（月曜日から金曜日、10時から16時まで常駐）、医師（木曜日、金曜日の週2回）、堺市から心理士1名（月曜日から金曜日、10時から17時まで常駐）を派遣しており、子供の発達についての様々な相談を受け付け、発達障害の早期発見・早期支援を実施している。まずは簡単な発達に関する悩み相談を行い、必要な場合には相談室にて本格的な相談にも応じる。心理士、医師はスタッフと同様のシャツを着用し、遊びに来た方が気軽に相談できるよう工夫している。



キッズサポートセンターさかい全体図（堺市提供資料より）

エ．実績（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(ア) 延べ利用者数（子供・保護者合計）：13.7万人

「堺市つどい・交流のひろば」及び「ポーネルドあそびのせかい」合計

(イ) 相談対応件数：216件

(ウ) 子育て支援イベント延べ参加者数（子供・大人合計）：521人

堺市つどい・交流のひろば主催の子育て支援イベント（子育てのおはなし会、絵本のおはなし会、父親の育児支援講座など）

その他、堺マザーズハローワークとの共催イベントや祖父母向けの孫育て講座等を実施  
(エ) 施設への満足度：97.4%

(オ) 利用者の声(主なもの):

- ・子供連れで出る際、このような場があると親子でゆっくりでき、とても助かっている。
- ・持参の飲み物、食べ物を食べられるスペースがとても助かる。
- ・月齢が低いときは授乳室もおむつ替えスペースも赤ちゃんスペースもとても助かった。
- ・いつもきれいで利用していて気持ちいい。スタッフも優しい。 など

オ．主な質疑応答

(問) 相談件数は当初の想定に比べてどうか。

(答) 相談件数は年に200件ほど。当初はそれほど多くないと想定していたが、大阪大学の医師と気軽に相談できるということもあり、徐々に認知度が広まり、件数は増えてきている。

(問) 民間企業と連携し運営していくうえでの課題はあるか。

(答) 広報等、公共的な媒体で広報活動を行う際に、営利で行っている部分をどこまで載せるか、また、赤字が続くような状態になった場合、事業から撤退されてしまうことにもなるため、市としてどこまでの協力ができるかが課題である。

## (2) さかい子育て応援団事業

ア．背景

堺市における出生児童数は年々減少傾向にあり、この傾向は当面継続すると思われる。また、合計特殊出生率についても、全国平均よりは若干高いものの近年は横ばい傾向である。

このような中、子育てを支援する基盤づくりを進めるためには、市民や企業・団体等が子育てに広く関心を持ち、理解の裾野を広げていくことが重要である。そのために、子育て支援に関わる市民活動や子育て支援を行う企業の社会貢献活動が、積極的に展開されるよう支援していく必要がある。

イ．事業内容

平成24年11月より事業開始。子育てを応援する取り組みを行っている市内の企業・団体等に「さかい子育て応援団」に登録してもらい、市はロゴマークを発行するとともに、登録団体の取り組み内容の情報発信を行う。

取り組み内容別に、「利用しやすい設備等の提供で応援(子育て家庭に優しい設備等を提供)」、「うれしいサービスで応援(子育て家庭に嬉しい付加的サービスを提供)」、「おトクなサービスで応援(子育て家庭にお得な割引やプレゼント等を提供)」に分けられる。

ウ．登録要件

- ・事業者の所在または活動拠点が市内にあること
- ・宗教活動及び特定の政治活動を目的としていないこと
- ・青少年の健全育成に反する業種でないこと
- ・公の秩序または善良な風俗に反するおそれのないこと

より多くの個人・事業所に登録してもらえるよう、登録要件は最低限のものとしている。

エ．事業の仕組み

(ア) 申込

子育てを応援する取り組みを行っている企業・団体等に対し「さかい子育て応援団」への参加を勧め、登録の申込みを呼びかける。

(イ) 登録決定

登録申込のあった企業・団体等に対して、登録の決定を行う。

(ウ) ロゴマークの交付

登録企業・団体等に「さかい子育て応援団」の一員であることをアピールできるロゴマークを交付。

(エ) 情報発信

「さかい子育て応援団」として参加することで、子育てに熱心で、社会貢献に積極的な企業・団体等として、堺市のホームページやフェイスブックページなどを活用して紹介する。



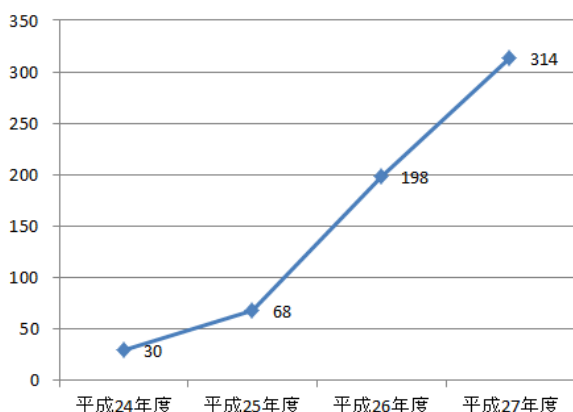
ロゴマーク

オ. 取り組み事例

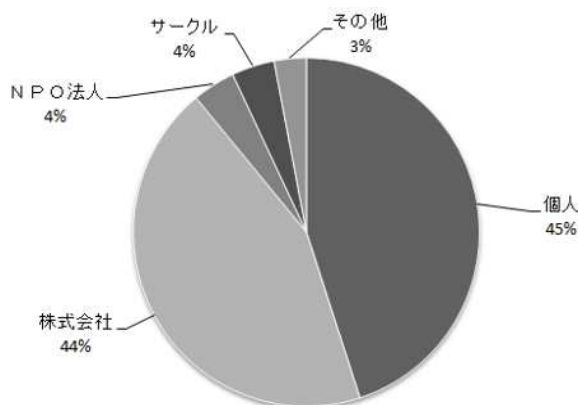
- 利用しやすい設備等の提供で応援（子育て家庭に優しい設備等を提供）  
授乳スペース、キッズスペース、おむつ替えコーナーなど
- うれしいサービスで応援（子育て家庭に嬉しい付加的サービスを提供）  
ミルクのお湯提供、子育てイベントの開催、子育て関連情報の提供など
- おトクなサービスで応援（子育て家庭にお得な割引やプレゼント等を提供）  
料金の割引・無料、予約・金利等の優遇、プレゼント・おまけなど

カ. 実績

登録団体数の推移



登録団体の内訳



・ 3年で10倍以上に増えている

・ 個人、株式会社で約9割を占めている

キ. 今後の展開

応援団登録団体の取り組み内容を施設利用者にわかりやすく表示し、市民がサービスを利用しやすくするため、「ミルクのお湯提供」「授乳スペース」「おむつ替えコーナー」の3種類について、取り組み内容を表示するステッカーを作成する。

また、きめ細かくタイムリーな子育て情報を子育て家庭に届けるため、子育て層に広く普及しているスマートフォンを活用し、子育て関連施設の情報や予防接種スケジュール管理機能を備えたアプリを構築し、平成29年1月からの配信を予定している。

ク. 主な質疑応答

(問) 個人の登録が全体の45%を占めているが、どのような取り組みが多いのか。

(答) ベビーマッサージの教室や育児教室等が多く、以前から子育て支援を行っていた方が、子育て応援団に登録することが多い。

(問) 国が全国展開している子育て支援パスポート事業と重複する部分もあると思うが、どう

か。

(答) パスポート事業は経済的なサービスの提供が主な目的だが、応援団事業はロゴマークをいろいろなところで使用してもらい、子育て家庭を見守っていこうという気運を醸成することが目的であるため、差別化はできている。

(問) 登録団体から新たな支援を行ってほしいなどの要望はあるか。

(答) 登録団体がそれぞれの取り組みを紹介する交流会を行ってほしい、ホームページやフェイスブック以外に広報誌等の紙媒体でも取り組みを紹介してほしいなどの要望がある。交流会については実施を検討している。

### 3. まとめ

堺市では、出生児童数が年々減少傾向にある中で、安心して子供を生み育てることができるまちづくりを進めている。

キッズサポートセンターさかいは、遊び場や絵本コーナーがあることで子供もつれて来やすく、同フロア内の相談室に医師等の専門スタッフが常駐することにより、スムーズに相談につなげられる体制が整えられている。また、授乳スペースやおむつ替えコーナーの設置や、威圧感を与えないよう医師等の服装にも気を配るなど、気軽に遊びに来て、気軽に相談できる環境づくりに努めている。



堺市議会議場にて

子育て応援団では、登録された企業・団体等が市のホームページやフェイスブックに掲載されることで、利用者側には身近なサービスの提供場所を簡単に知ることができ、企業側には集客効果が期待されるなど、双方にとってメリットがあると感じられた。より多くの方がこの事業を利用することで、地域社会全体で子育てを応援しようという気運の醸成が期待される。

子供や子育て家庭に対して直接支援を行うだけでなく、保護者が悩みを相談しやすい環境づくり、社会全体が子育て家庭に関心をもつ環境づくりもまた重要である。子育て支援環境の基盤整理を進める堺市の事業は大いに参考となるものであった。

## 【大阪府池田市】

### 1. 市の概要

人口 102,695人(28年4月30日現在)

面積 22.09km<sup>2</sup>

#### 主な特色

- ・古くから街道が交わる交通の要衝として栄え、北摂地域の中心地として発展。近年においては、大阪国際空港をはじめ複数の幹線道路が整備され、交通の利便性が高い住宅都市である。
- ・大阪府の北部、都心から約16kmのところに位置し、市域北部の五月山の緑や、西部の猪名川の清流に囲まれた自然豊かな地域である。
- ・インスタントラーメン発祥の地として知られるとともに、古典落語の舞台でもあることから平成19年に国内初の市立上方落語資料展示館「落語みゅーじあむ」を開館した。

### 2. 調査事項

#### (1) 背景・目的

市の中心部では住宅環境の整備が進み、子育て世帯が増加。また、女性の社会進出により、保育利用需要が増加した。一方、中心部以外では、中心部への移住が増え人口が減少。また、少子化の進行等により、民間保育園は定員の半数にも満たない状況となった。

こうした状況の下、待機児童対策、市内保育所入所児童数の均等化を図ることを目的に、過密地区の子供たちを過疎地区へ送り込むシステムとして平成12年に保育ステーション「カルガモ」、平成18年に「もりもりKIDS」を設置した。

## (2) 事業内容

現在、池田市には池田駅前に設置した「カルガモ」、ザ・ライオンズ池田内に設置した「もりもりKIDS」の2カ所で送迎保育ステーション事業を実施している。

### ア．カルガモ

#### 【概要】

- ・委託先：社会福祉法人 細河保育園
- ・場所：池田駅前ステーションNビル2階
- ・送迎保育利用定員：約55名（チャイルドシートの数により変動）
- ・実施事業：送迎保育、一時預かり、休日保育事業

#### 【事業開始の経緯】

- ・池田の北部では保育園が定員割れしており、保育需要の地域間格差を埋めるため平成12年より市が社会福祉法人に委託し送迎保育事業を開始した。
- ・池田駅前ビルの再開発が行われた際に、建物を購入し、内装を整え、送迎保育ステーションを設置した。



カルガモを見学

### イ．もりもりKIDS

#### 【概要】

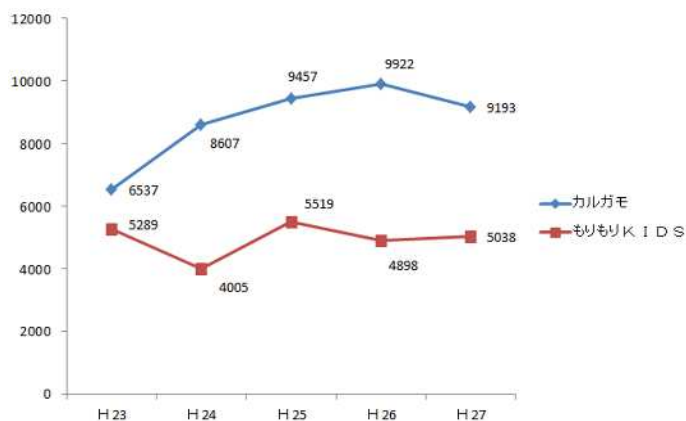
- ・委託先：学校法人 森上学園
- ・場所：ザ・ライオンズ池田内1階
- ・利用定員：0歳児4名、1歳児以上22名
- ・実施事業：送迎保育、一時預かり、子育て支援拠点施設

#### 【事業開始の経緯】

- ・マンションの開発業者より、子育て世帯を呼び込むため、子育て支援施設を設置してほしいと市に要望があった。
- ・場所の寄付を受け、池田駅周辺の保育需要が増加していたため、石橋方面に送迎する送迎保育ステーションとして利用開始した。

## (3) 利用実績

延べ利用人数実績（単位：人）



(4) 経費

	カルガモ	もりもりKIDS
送迎バス	ハイエース2台、バス1台 委託法人が購入	市のハイエース1台を無償 貸与
初期経費	【歳出】内装、空調工事代 30,240 千円 建物購入代 70,058 千円 【歳入】国補助金 49,000 千円	【歳出】備品代等 5,000 千円 【歳入】宝くじ助成 5,000 千円
運営経費 市の歳出	委託料 13,983 千円 管理費 213 千円	委託料 11,689 千円 管理費 642 千円

(5) 事業による利点

・待機児童の解消

入所希望の偏りを分散することができる。

・保護者にとって利便性が高い

仕事の時間に合わせてステーションに子供を預けることができる。

・国の補助金を活用できる

国の保育対策総合支援事業費補助金を活用して事業を行うことができる(補助額国2分の1)。

(6) 課題

・保護者と保育所との信頼関係

保護者が直接保育所に行く機会が少ないため、連絡帳などで細やかな気配りが必要。

・バスの駐停所の確保

子供たちが乗り降りしても安全な場所が必要。

・保育所と送迎保育ステーションとの連携

職員同士がしっかり連携して、子供の情報などを伝え合う体制が必要。



(7) 今後の取り組み

今後、通園の利便性の低い保育所に送迎するなど、必要に応じてルート変更なども検討していく予定である。また、現在まで利用者からの苦情もほとんどないため、送迎保育ステーションを増やすなど事業拡大も検討していく。

3. 主な質疑応答

(問) 保護者と保育士が子供の成長を共有しづらい点が課題だと思うが、保護者と保育士が定期的に交流する機会はあるか。

(答) 保護者との面談は月1回、定期的に行っている。また、保育所での行事などで、子供の様子を保育士が説明したり、保護者が直接様子を見たりする機会はある。

(問) 高齢者の運転による事故が多いが、送迎車の運転士に年齢制限は設けているか。

(答) 年齢制限は特段設けてはいないが、委託契約を結ぶ中で、事故のないよう、また、小さい子供が乗っているため、より丁寧な運転をするよう指導している。

4. まとめ

送迎保育ステーション事業は、保育所需要の地域間格差を是正するため、平成12年より実施している。駅前等の利便性の高い場所に設置したステーションにおいて、郊外の保育所等への送迎を実施しており、現在は2カ所のステーションを設置している。これにより、入所希望の過密地域から過疎地域へと偏りを分散することができている。また、地域間の保育需要の是正のみならず、待機児童数ゼロの維持にも寄与している。池田市では、平成27年4月まで待機児童数ゼロが続いており、平成28年も一時待機児童数95人となったが、7月にはゼロを達成している。

保護者にとっては、駅前の通いやすい場所にあるステーションに子供を預けることにより、そのまま駅から出勤することができる、また、自由な時間に送り迎えすることができ、時間の制約を受けないなどの利点がある。現在まで保護者からの苦情もあまりなく、またほとんどの児童が他の保育園等に転園することがないとのことで、保護者の満足度が高いことが伺える。

本区においても待機児童対策は喫緊の課題であり、また南部地域の待機児童数が増えているなど地域間での格差も見受けられるため、池田市の本事業は参考となるものであった。今後も、送迎保育ステーションを増やすなど事業を拡大していくという池田市の動向を注視していきたい。



視察の様子



池田市役所前にて